

ALLEN & HEATH

ZED-10 取扱説明書



■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら(断線や芯線の露出など)、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿度の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具(オプション)を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。

- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- んれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■はじめに

このたびは本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

まずこちらの取扱説明書をお読みいただき、性能をご理解いただいた上で用途に応じた最適な使用方法を追求してください。

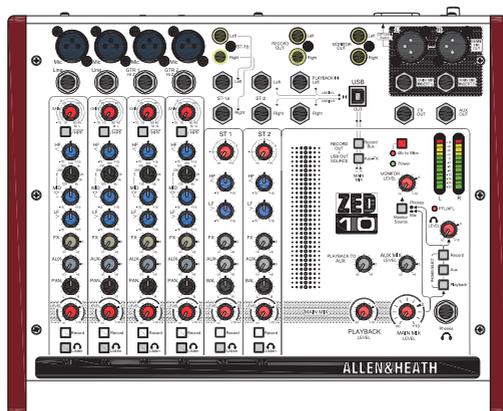
保証について

- ・ 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品ともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- ・ お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・ 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

故障かな？と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

パッケージ内容



ZED-10 ミキサー
電源コード

目次

このたびはAllen & Heath ZED-10ミキサーをお買い求めいただきありがとうございます。本機を最大限にご活用していただくために、本書をよくお読みになりコントロール類やセットアップ手順について理解してください。

パッケージ内容.....	4
はじめに.....	6
仕様.....	8
外形寸法.....	9
ブロックダイアグラム.....	10
モノ入力チャンネル1&2.....	11
モノ入力チャンネル3&4.....	14
ステレオ入力チャンネル1.....	15
ステレオ入力チャンネル2.....	17
マスターセクション.....	18
コンピューターに接続する.....	20
ZED-10活用例:ライブ・ミキシング.....	21
ZED-10活用例:スタジオ・レコーディング.....	22
ZED-10活用例:USB経由でエフェクト・ループ1.....	23
ZED-10活用例:USB経由でエフェクト・ループ2.....	24
配線について.....	25

はじめに

ZED-10誕生のバックグラウンド:

Allen & HeathのZEDシリーズは、英国、コーンウォール地方で丹誠込めて設計され、プロ用のミキシング・コンソールに求められる高度な品質基準のまま製造しました。ZED-10の多くのパーツは大型ミキサーで採用したものを使用し、本体のシャーシ設計も大型機と同様の手法を採っています。そのため、ミキサーの各チャンネル基板はインライン型にマウントされ、ノブなどの回転パーツはフロントパネルに金属製ナットで留めるといふ、手の込んだ設計仕様です。このことにより、長年の酷使にも十分耐えられる信頼性の高いミキサーができて上がるのと同時に、万一の故障の際にもパーツの交換が容易に行えるという高いサービス性も兼ね備えています。同クラスではユニークなインライン形式を採用した ZED-10は、まさにプロ仕様なミキサーです。

オーディオ回路は長年にわたる継続的な開発と改良をベースにし、厳選されたパーツのみを使用して最高の音質をお届けします。

さまざまな用途に対応できる高い柔軟性:

ZED-10はライブ・ミキシングに最適なミキサーです。インライン型に構成されたフロントパネルの配置は非常に分かりやすく、しかも最高の音質を誇ります。また、ライブ会場やホーム・スタジオでのレコーディングでは、USB端子がその威力を発揮します。柔軟性とクオリティを高次元で兼ね備えたミキサーは、ZEDシリーズの大きな特長です。さらに、クラスAディスクリートFETを採用したハイインピーダンス入力の装備により、エレキギターなどインピーダンスの高い楽器もダイレクトに接続でき、最大4本のマイク入力、MP3プレイヤーにも対応した2組のステレオ入力、レコーディング時に便利な独立2トラック・レコーディング出力とプレイバック入力(ライブ会場でのバンドとバンドの間に流すBGM用にも使用可能)を装備しました。また、XLR端子のメイン出力にはインサージョン端子も装備、さまざまなモニター環境に対応可能なモニター端子やヘッドホン端子、コンデンサーマイクの接続時に便利な48Vファンタム電源スイッチやサブ・ミックスに便利なDILレベル・スイッチも搭載し、あらゆるミキシングに対応します。

もちろん、ZED-10はこれらの高機能をふんだんに搭載しているだけでなく、連日連夜のライブにも十分に耐えうる高い信頼性も兼ね備えています。

また、ZED-10は音楽だけでなく、教育施設や会議場、ホテルや教会など、あらゆるシチュエーションで使いやすいさと最高の音質を発揮するミキサーです。

マイク/ライン・プリアンプ:

Allen & Heath MixWizardシリーズをベースにしたプリアンプ部は、低ノイズのディスクリート・トランジスタ回路を採用し、最大60dBのハイ・ゲイン設計です。ゲインを高くしてもノイズは低く抑えられる高リアリティなプリアンプです。

ギター/Hi-Z入力:

ギター/Hi-Z入力はZED-10専用設計の超ハイ・インピーダンス仕様、ディスクリート・クラスA FET (電界効果トランジスタ)を採用し、あらゆるタイプのエレキギターやライン楽器をダイレクトに接続できます。また、26dBゲインブーストスイッチにより、出力が非常に小さいピックアップにも対応します。しかもFETの採用により、ギターアンプや楽器用アンプで一般的なチューブ式入力回路に近いレスポンスを実現しました。

はじめに

EQ:

ZED-10のモノ入力には、ミッド周波数可変式の3バンドEQを、ステレオチャンネルには2バンドEQをそれぞれ装備しました。EQの各バンドは、あらゆる入力ソースに対応するべく、周波数とレスポンスを入念に調整しました。

レコードバス:

各チャンネルの出力先をレコーディング、モニター、メインに独立して設定可能なバススイッチを装備しました。

USB端子:

コンピューターとのオーディオのやり取りは、現代のミキサーにとって今や必須の機能です。ZED-10ではUSB端子を装備しました。面倒なことはひとつもありません。ZED-10とコンピューターをUSBケーブルで接続し、USB端子に送る信号をミキサー上で選択するだけです。これでCDクオリティのオーディオをコンピューターとやり取り可能です。

内蔵型電源部:

ZED-10はACアダプターによる電源供給ではなく、信頼性の非常に高い専用設計の内蔵型電源を採用しました。

仕様

動作レベル

動作レベル	
入力	
モノチャンネル(XLR)入力	-10 ~ -60dBu定格 (最大+11dBu)
モノチャンネル・ライン(標準ジャック)入力	+10 ~ -40dBu (最大+31dBu)
ステレオ入力(標準ジャック/RCAジャック)	0dBu定格 (CONTROLはOFF~+15dBu)
出力	
L/R出力(XLR) ノーマル/DIアウト	0dBu/-30dBu (最大+21dBu/-9dBu)
AUX、FX出力(標準ジャック)	0dBu定格 (最大+21dBu)
RECORD、MONITOR出力(RCAジャック)	0dBu定格 (最大+21dBu)

周波数特性

マイク入力→ミックスL/R出力(ゲイン@30dB)	10Hz~30kHz、+0.5dB/-1dB
ライン入力→ミックスL/R出力(ゲイン@0dB)	10Hz~25kHz、+0.5dB/-1dB
ステレオ入力→ミックスL/R出力	10Hz~30kHz、+0.5dB/-1dB

全高調波歪率 (THD+N)

マイク入力→ミックスL/R出力(ゲイン@10dB、1kHz、+10dBu出力)	0.002%
マイク入力→ミックスL/R出力(ゲイン@30dB、1kHz)	0.01%
ライン入力→ミックスL/R出力(ゲイン@0dB、0dBu@1kHz)	0.003%
ステレオ入力→ミックスL/R出力(ゲイン@0dB、+10dBu@1kHz)	0.002%
ギター入力→ミックスL/R出力(0dBu、BOOSTオフ)	0.015%
ギター入力→ミックスL/R出力(0dBu、BOOSTオン)	2%(2倍音)

ヘッドルーム

アナログ(規定レベル(0Vu)から)	21dB
USB入出力(規定レベル(0Vu)から)	14dB

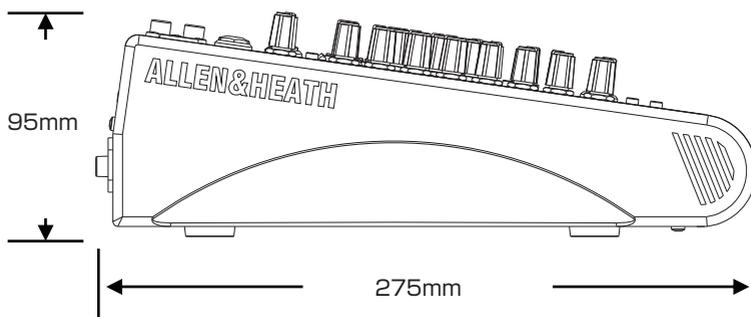
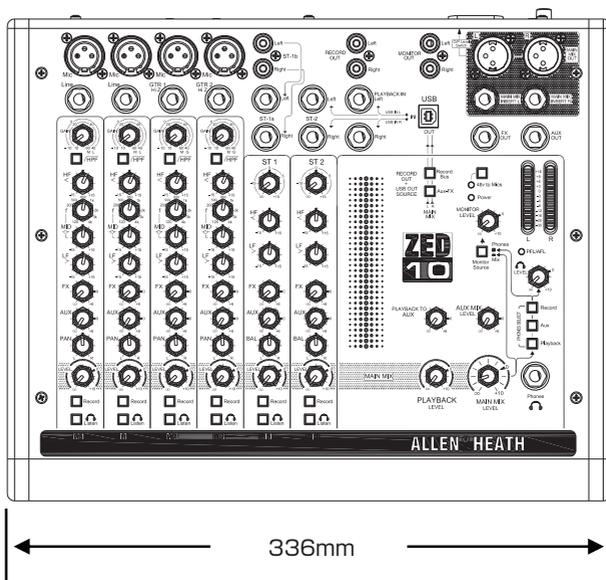
ノイズ

マイク入力等価ノイズ(最大ゲイン、150Ω、22Hz~22kHz)	-127dB
ミックスL/R出力(L/Rフェーダー=0、22Hz~22kHz)	-96dB

USBオーディオ・コーデック

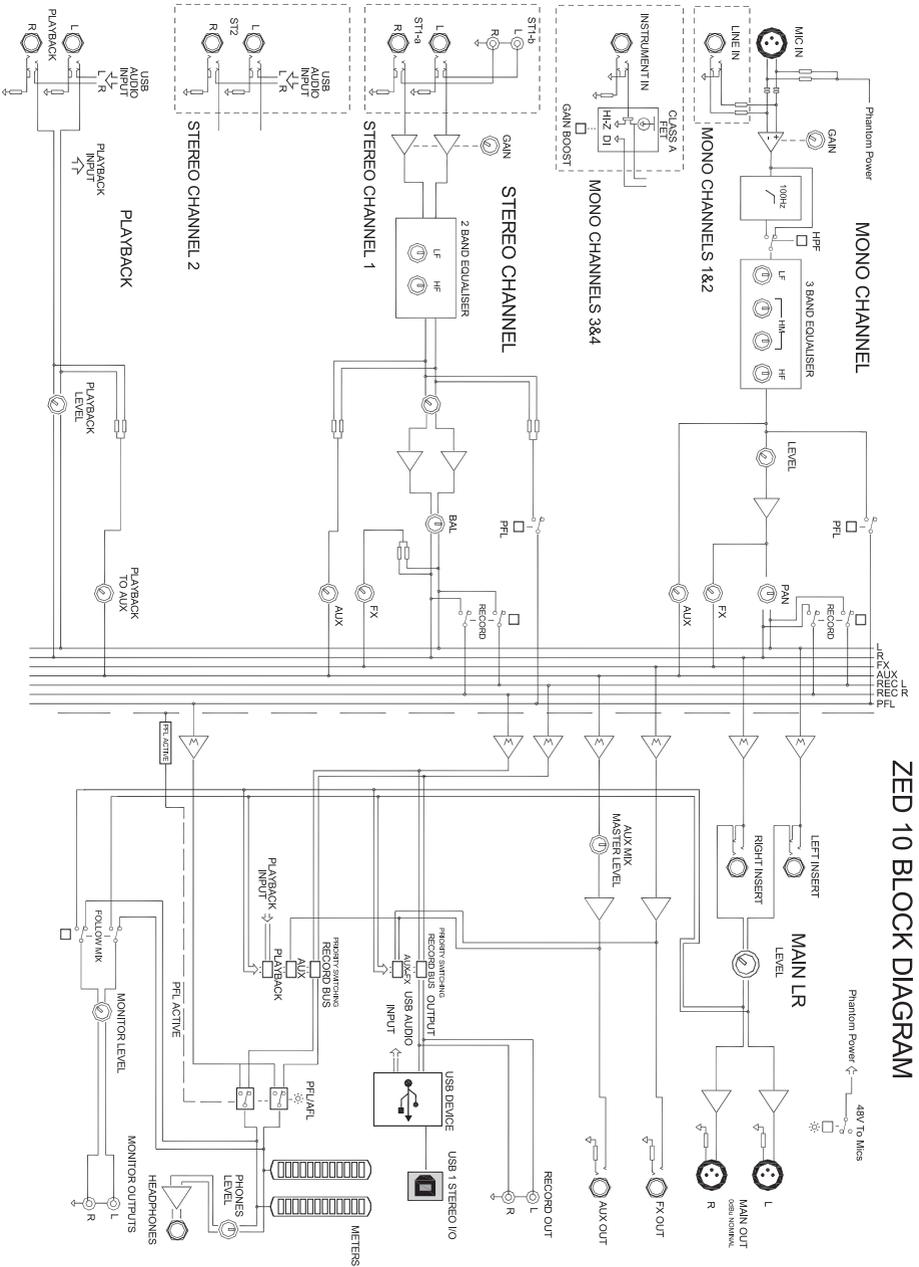
USBオーディオ入出力	USB1.1 準拠、16ビット
サンプリング周波数	32/44.1/48kHz

外形寸法



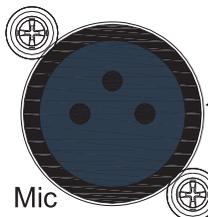
質量	
本体	3.2kg
梱包時	4.4kg

ブロックダイアグラム



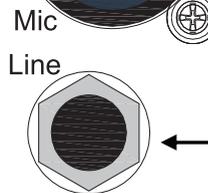
ZED 10 BLOCK DIAGRAM

モノ入力チャンネル1&2



マイク入力端子

スタンダードな3ピンXLR端子です。1番ピン=アース、2番ピン=ホット(+)、3番ピン=コールド(-)です。



ライン入力端子

1/4インチ標準フォーンジャックです。バランスまたはアンバランスのラインレベルに対応しています。チップ=ホット(+)、リング=コールド(-)、スリーブ=アースです。

ライン入力はXLR入力と内部的に接続されていますので、両方のジャックにケーブルが接続されている場合、それぞれの信号を入力しますのでご注意ください。



ゲインコントロール

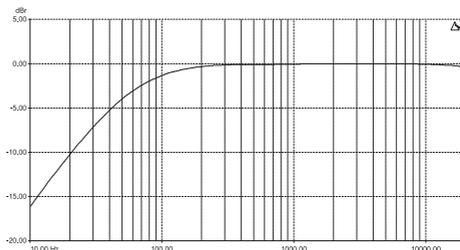
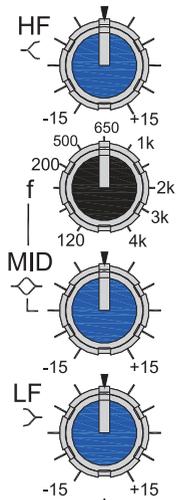
入力アンプのゲインをコントロールして入力信号のレベルを合わせます。ゲインの可変幅はXLR端子(マイク入力)では+10dB~+60dB、ライン入力では-10dB~+40dBです。



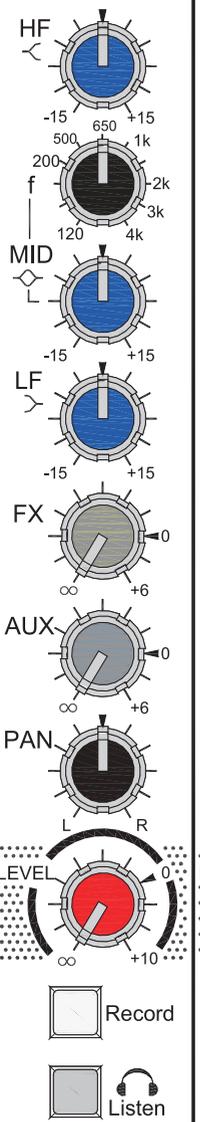
100Hzハイパスフィルター

ハイパスフィルターは、マイクからのポップノイズや、マイクの振動によるノイズを取り除きたい場合に使用します。このフィルターは100Hz以下の信号を6dB/オクターブの特性でカットします(下図参照)。

なお、ハイパスフィルターはXLR端子、ライン入力の両方で使用できます。



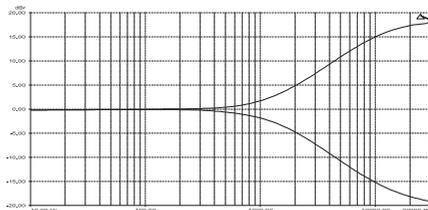
モノ入力チャンネル1&2



M1

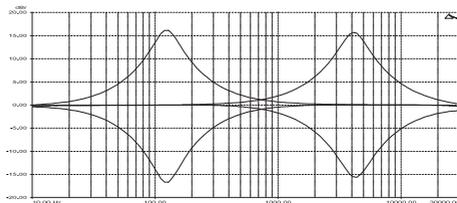
ハイEQ

高音域のレスポンスをハイEQで調節します。コーナー周波数は12kHzで、±15dBのカット/ブーストが行えます(下図参照)。



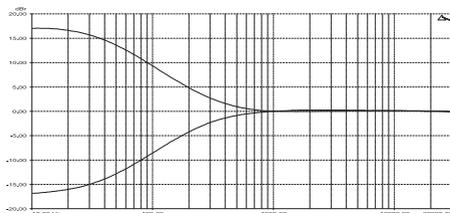
ミッドEQ

ミッドEQで中音域のレスポンスを調整します。中心周波数は可変式で、120Hz～250Hzでの余分な膨らみ(いわゆる「プーミー」な感じ)を取り除いたり、マイクからのサウンドの明瞭度を上げるために2～3kHzを持ち上げたりするといった使い方ができるように、可変幅を120Hz～4kHzと幅広くしています(下図参照)。

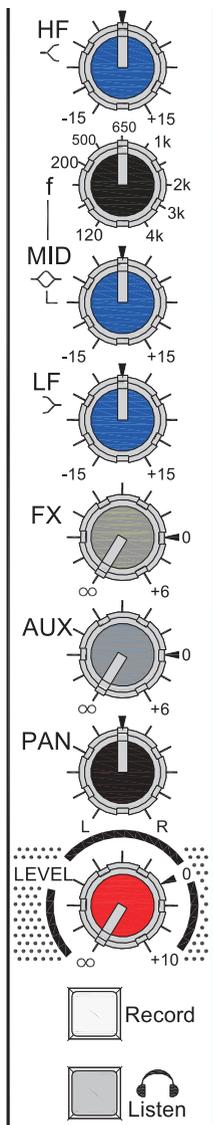


ローEQ

ローEQで低音域を調節します。下図はローEQを最大にカット/ブーストした状態を示したものです。コーナー周波数は80Hzです。



モノ入力チャンネル1&2



M1

FX(エフェクト)センド

このノブでエフェクトバス、FX出力へ送る信号量を調節します。この信号はポストレベルですので、チャンネルレベルの影響を受けません(つまり、ドライ音とエフェクト成分のバランスを保ったままレベルをコントロールできます)。また、このノブは右いっぱいに戻すと+6dBのゲインになります。なお、FXバスにはマスターレベルコントロールはありません。

AUXセンド

AUX出力のレベルを調節します。この信号はプリレベルですので、メインのL/Rミックスとは無関係にレベル調節を行えます。このノブも右いっぱいに戻して+6dBのゲインが得られます。また、AUX出力にはマスターレベルコントロールがあります。

パンポット

パンポットは、ステレオバス、メインのステレオ出力の左右間のどこに入力音を定位させるかを決めるものです。センターポジションで左右の音量バランスが同量になります。左いっぱいに戻した時は、右へ信号が流れなくなります。

チャンネルレベル

このノブでメインのL/Rバス、レコードバス、FXセンドへ送る信号量を調節します。また、このノブは右いっぱいに戻すと+10dBのゲインが得られます。なお、「0」のポジションでユニティゲインになります。

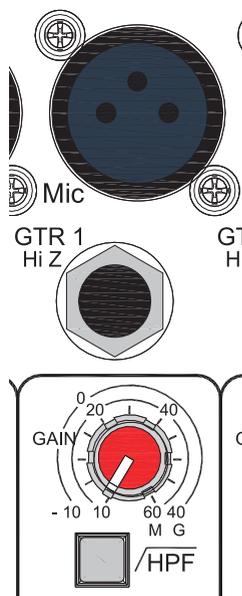
レコード・スイッチ

このスイッチを入れるとステレオバスとは別のレコードバスにも信号が送られるようになります。レコードバスに送られる信号は、パンポットとチャンネルレベルの影響を受けません。なお、レコードスイッチを入れてもメインのステレオバスの音は変化しません。

リッスン・スイッチ

このスイッチを入れるとヘッドホンまたはモニター出力に信号が送られます。EQ直後の信号が送られますので、チャンネルレベルの影響を受けません(そのため、メインミックスやレコードバスに信号を送る前に音をチェックすることができます)。

モノ入力チャンネル3&4



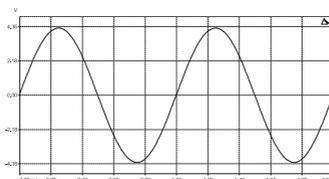
Hi Z入力

モノ入力チャンネル3&4には、1&2とは異なりギターやその他の楽器用のHi Z入力があります。それ以外の機能は1&2と同様です。

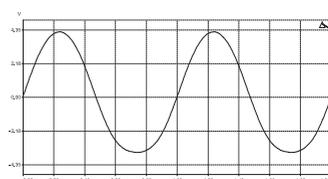
この入力は1/4インチ標準ジャック仕様、ラインレベルの信号や楽器用ピックアップからの信号を入力できます。接続はチップ=ホット(+)、リング=コールド(-)、スリーブ=アースです。

Hi Z入力とXLR入力は内部的に接続されていますので、両方の入力にケーブルが接続されている場合、それぞれのオーディオを同時に入力されますのでご注意ください。また、Hi Z入力は通常のラインレベルの入力も可能ですが、基本的には楽器用ピックアップからの入力に適するように設計されていますので、入力インピーダンスは10MΩと非常に高く、真空管式ギターアンプやヘッドアンプなどのサウンドに近づけるべく、FET(電界効果トランジスタ)をクラスA動作させています。そのため、回路的には非対称のオーバードライブが弱めにかかるようになっており、必要に応じて暖かみのある2倍音のキャラクターをサウンドにプラスすることができます。

Hi Z入力 ゲイン・ブーストがオフの場合

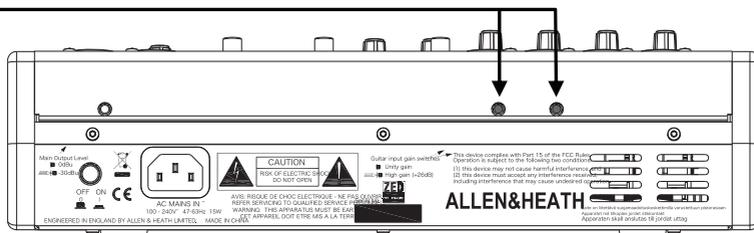


Hi Z入力 ゲイン・ブーストがオンの場合

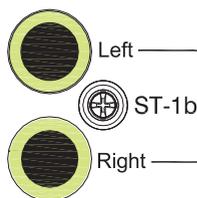


ゲイン・ブースト

本体リア・パネルにあるスイッチで、Hi Z入力のゲインを26dBブーストさせることができ、出力の小さなピックアップのサウンドを大きくしたり、必要に応じてオーバードライブをかけたりすることができます。なお、XLR入力に通常のラインレベルの信号が入力されている場合は、このスイッチがオフになっていることを必ず確認してください。

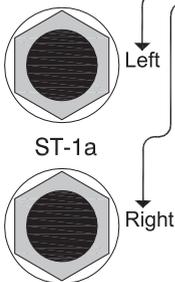


ステレオ入力チャンネル1



ST-1b入力

RCAジャックのこの入力には、アンバランス・ラインレベルのステレオ信号、例えばCDプレイヤーや音源モジュール、MP3プレイヤーなどからの音声を入力できます。なお、お使いのMP3プレイヤーのオーディオ出力端子がステレオミニジャックの場合は、変換ケーブルをお使い下さい。

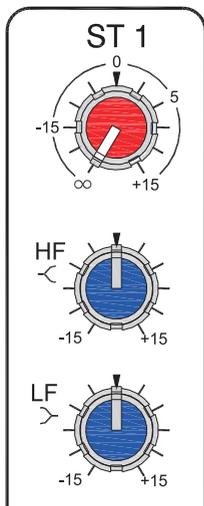


ST-1a入力

1/4インチ標準ジャック仕様、ラインレベル用のステレオ入力端子です。ST-1a、ST-1bの両方にケーブルが接続されている場合、ST-1aの入力を優先します。

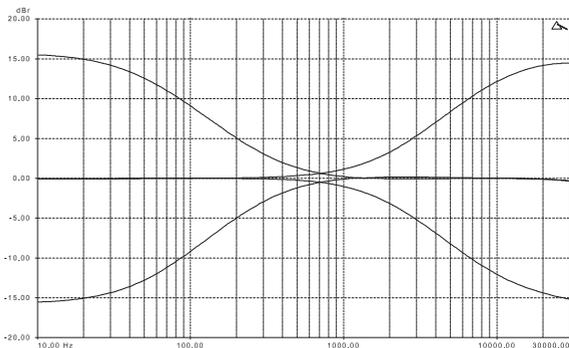
ST-1ゲイン

ステレオ入力1のゲイン調整をこのノブで行います。最大+15dBまでのゲインを得られます。



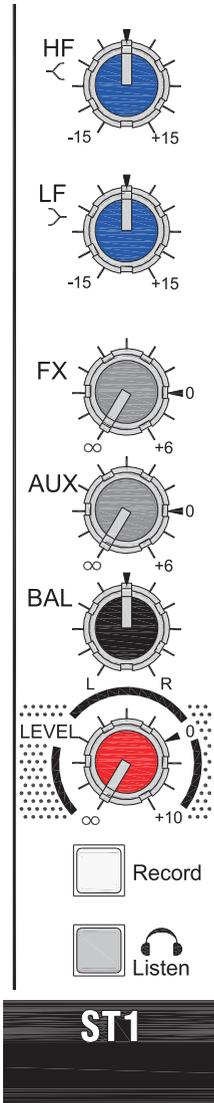
ステレオEQ

2バンドEQです。コーナー周波数はそれぞれ12kHz、80Hzです。また、ブースト/カット幅は最大±15dBです。



ステレオチャンネルEQ

ステレオ入力チャンネル1



FX(エフェクト)センド

ステレオチャンネルからエフェクトバス、FX出力へ送る信号量をこのノブで調節します。この信号はポストレベルの信号ですのでチャンネルレベルの影響を受けます。また、このセンドを右いっぱいに戻すと6dBのゲインが得られます。なお、エフェクトバスにはマスターレベルコントロールはありません。

AUXセンド

ステレオチャンネルからAUXアウトへ送る信号量をこのノブで調節します。この信号はプリレベルですので、チャンネルレベルとは無関係に設定できます。また、このセンドには+6dBのゲインがあり、AUXバスにはマスターレベルコントロールもあります。

バランス

ステレオ信号の左右のレベルを相対的に調節します。このチャンネルに入った信号は基本的にステレオバスに送られ、メインのステレオ出力に流れます。このノブをセンターのポジションにすると、左右の音量が同じになります。左いっぱいに戻すと、右からは音が出なくなります。

レベル

ステレオチャンネル1のレベルをこのノブで調節します。このノブでは10dBのゲインが得られるようになっており、ユニティゲインは「0」のポジションになります。

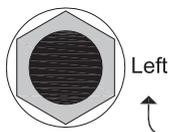
レコード・スイッチ

このスイッチを入れると、ステレオバスとは別のレコードバスにも信号を送ることができます。レコードバスに送られる信号はレベルとバランスノブの影響を受けます。また、このスイッチを入れてもメインのステレオバスには何の影響もありません。

リッスン

このスイッチを入れるとヘッドホンやモニター出力に信号が流れ、信号のチェックを行えます。この信号はEQ直後から取り出していますのでチャンネルレベルの影響を受けません(そのため、チャンネルに入った信号をメインのミックスやレコードバスに流す前に確認することができます)。

ステレオ入力チャンネル2



Left

ST-2

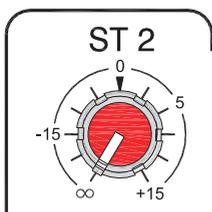


Right

ST-2入力

1/4インチ標準ジャック仕様です。USBオーディオ入力に接続されている場合、標準ジャックの入力が優先になりますので、USBオーディオ入力を使用される際には、このジャックには何も接続しないようにします。

ステレオチャンネル2のその他の機能は、ステレオチャンネル1と同様です。



重要!!ご注意!!

ステレオチャンネル2にUSBなどのケーブルを接続している時でも、このチャンネルを使用していない場合はレベルを完全に絞りにしておくことをお勧めします。これは、使用していないUSB機器から予期せぬノイズがミックスに混じってしまうことを防ぐためです。



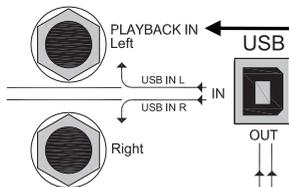
レコード出力

RCA端子仕様のステレオラインレベル出力です。USB出力セクターで選択した信号を出力します。録音機器を接続したり、ステレオミックスをここから流したり、または特定のチャンネルの信号だけを別の機器に送るのに便利です。



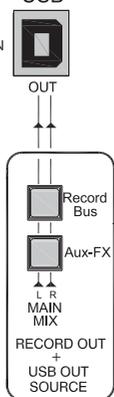
プレイバック入力

1/4インチ標準ジャック仕様、アンバランス・ラインレベルの入力です。CDプレイヤーなどを接続してBGMを流したり、録音機器を接続して最終ミックスを流したりする際に使用できます。なお、この端子の入力はUSBオーディオ入力よりも優先されますので、USBオーディオ入力を使用される際にはこの端子に何も接続しないようにします。



USB出力セクター

USBオーディオ出力とレコード出力へ送る信号をここで選択できます。レコードバスの信号を送りたい場合はRecord Busのスイッチを、AUXやエフェクトの信号を送りたい場合はAUX-FXのスイッチをそれぞれ入れます。両方のスイッチとも切っている場合はメインミックスが流れ、両方のスイッチが入っている場合にはレコードバスが優先になります。



マスターセクション

メインミックス・XLR出力

XLRコネクター仕様のメインのステレオ出力(バランス出力)です。本機をサブミキサーとして使用し、この出力を別のミキサーへ接続する場合は、リア・パネルにある出力レベルを30dB下げるスイッチを使用します。

メインミックス・インサート端子

1/4インチ標準ジャック仕様のインサートジャックです。チップ=センド、リング=リターン、スリーブ=アースで、定格レベルは0dBuです。

エフェクト&AUXバス出力

1/4インチ標準ジャック仕様です。チップ=ホット、リング=コールド、スリーブ=アースで、定格レベルは0dBuです。エフェクト・アウトとは、エフェクトプロセッサからの出力ではなく、エフェクトバスの出力で、外部機器などを接続する場合に使用します。また、AUX出力は AUX ミックス・マスター・レベルからの出力です。

48Vファンタム電源

コンデンサー・マイクの使用時に、4つのマイク・入力へ同時に48Vファンタム電源を供給するスイッチです。

モニター・レベル

モニター出力の音量を調節します。右いっぱいに戻すと+10dBのゲインが得られます。

モニターソーススイッチ

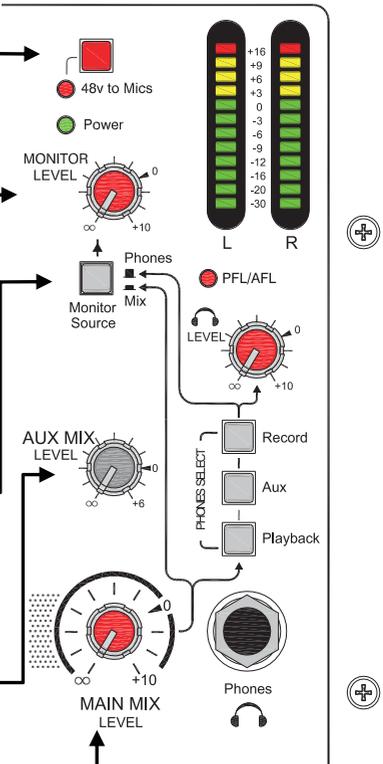
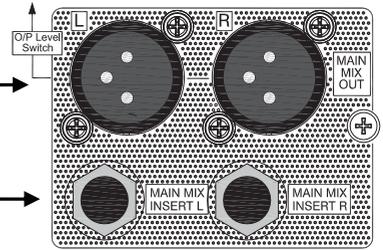
このスイッチでモニター出力へ送るソースを、ヘッドホンモニターセクションまたはメインステレオミックスのどちらかに切り替えます。メインミックスとは別のモニター環境が必要なときに便利です。

AUXミックス・レベル

AUXバスのマスターボリュームです。OFF から+6dBの間で調節できます。

メインミックス・レベル

メインミックスのマスターボリュームです。OFFから+10dBの間で調節できます。



マスターセクション

ステレオメーター

12セグメントLEDメーターで、素早い立ち上がり(4mS)と程よい減衰(1S)でレベルを表示します。表示する信号はヘッドホンソースセレクトスイッチで選択できます。また、リッスンスイッチが入っている場合はモノ・リッスン信号(PFL)を表示します。

PFL(プリフェイド・リッスン)LED

各チャンネルのリッスンスイッチがひとつでも入っているとこのLEDが点灯します。この場合、ヘッドホンソースセレクトの設定よりも優先してリッスン信号が出力され、メーターにもそのレベルが表示されます。

ヘッドホンレベル

ヘッドホン出力の音量を調節します。

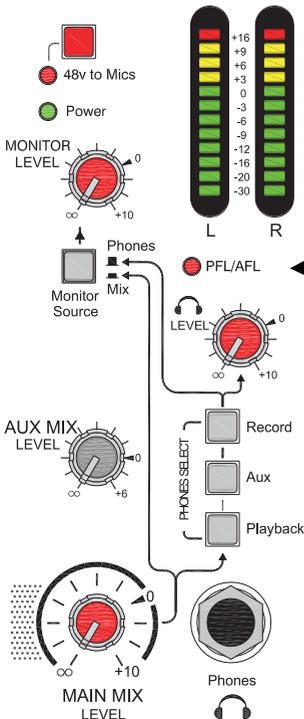
注意!! 耳を守るために音量には十分にご注意下さい。大音量を継続的に聴くと聴覚の障害や聴力を失う恐れがあります。

ヘッドホンソースセレクトスイッチ

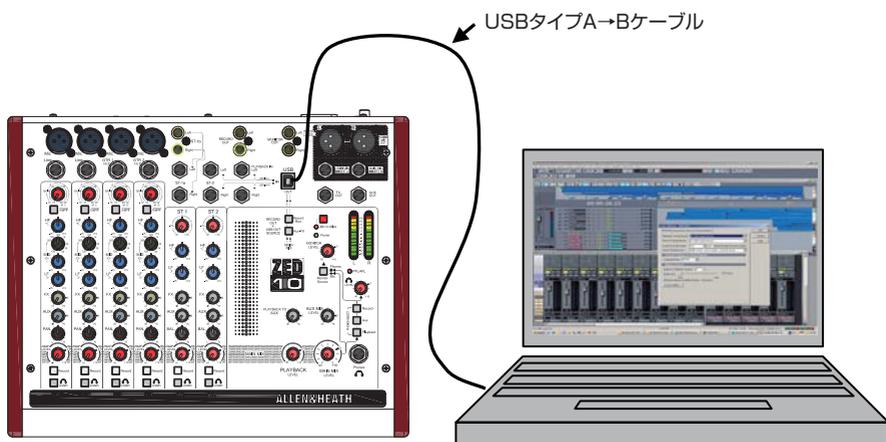
ヘッドホンでモニターする信号を選択します。すべてのスイッチが切れている状態ではメインミックスをモニターできます。Playbackのスイッチを入れるとプレイバック入力の音が、AUXのスイッチを入れるとAUXバスの音が、Recordのスイッチを入れるとレコードバスの音がモニターできます。リッスンスイッチが入っている場合は、ここでの設定に関係なくリッスンスイッチの動作が優先されます。

ヘッドホン・アウト

1/4インチ・ステレオ・ジャック仕様で、チップ=左、リング=右、スリーブ=アースの配線です。



コンピューターに接続する



USBオーディオ・インターフェイス

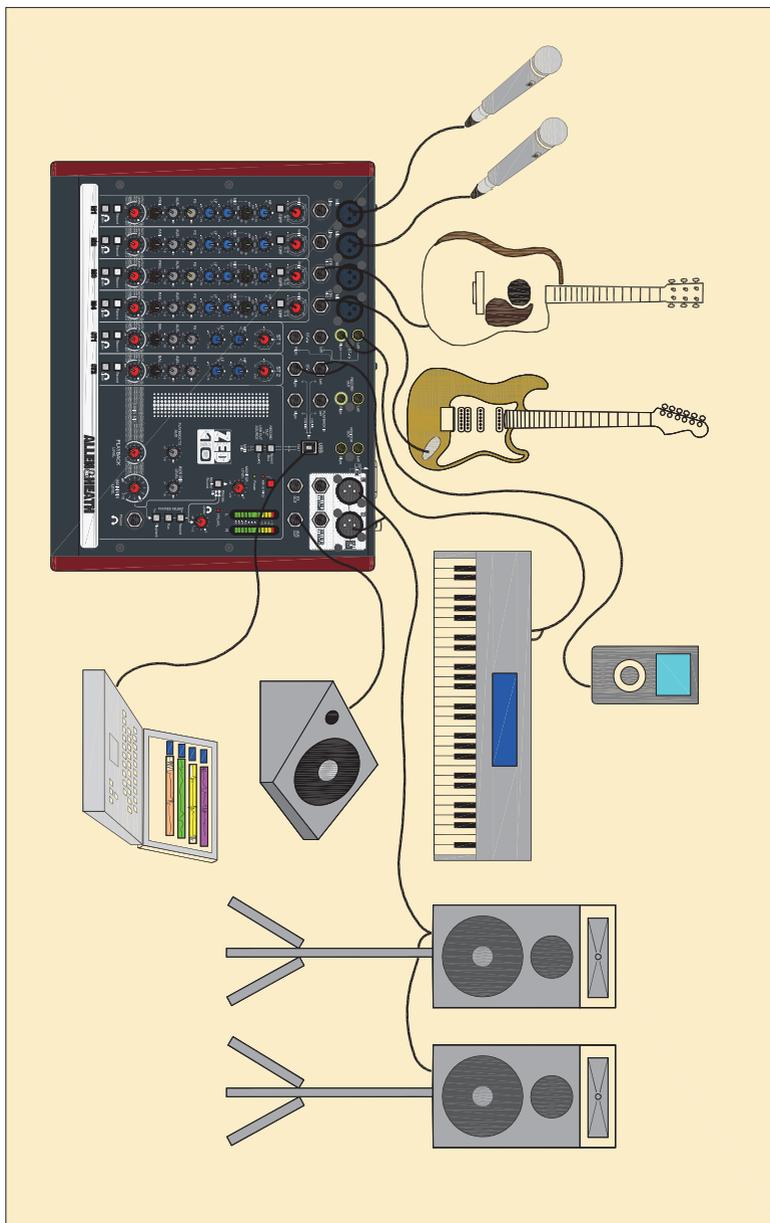
ZED-10FXはステレオ双方向USB 1.1準拠のオーディオコーデックを搭載しています。2つのUSBポートともWindows、Mac Core Audioに対応しています。つまり、コンピューターとUSB接続するだけでオーディオのやり取りが行えます。

コンピューター上でオーディオの録音や再生を行うにはオーディオ・ソフトウェアが必要になることがありますが、基本的なレベルではお使いのコンピューターでご使用のメディア・プレイヤーからZED-10FXにオーディオを流すことができます。

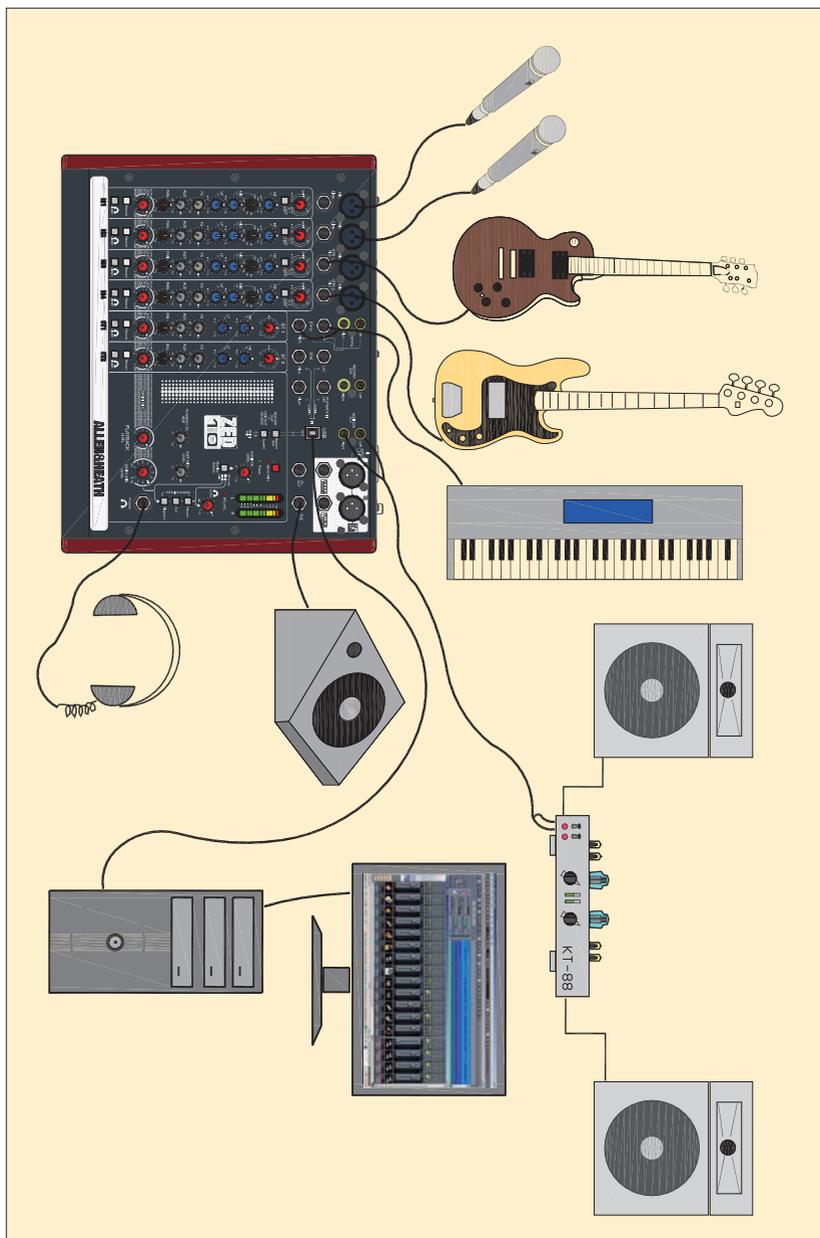
注意：

コンピューターとZED-10FXをUSB接続してもコンピューターからの音が出なかったり、音量が非常に小さい場合は、お使いのコンピューター内のオーディオ・デバイスの音量設定をご確認下さい。多くの場合、その音量設定は最大にしておくとも良いでしょう。

ZED-10活用例:ライブ・ミキシング



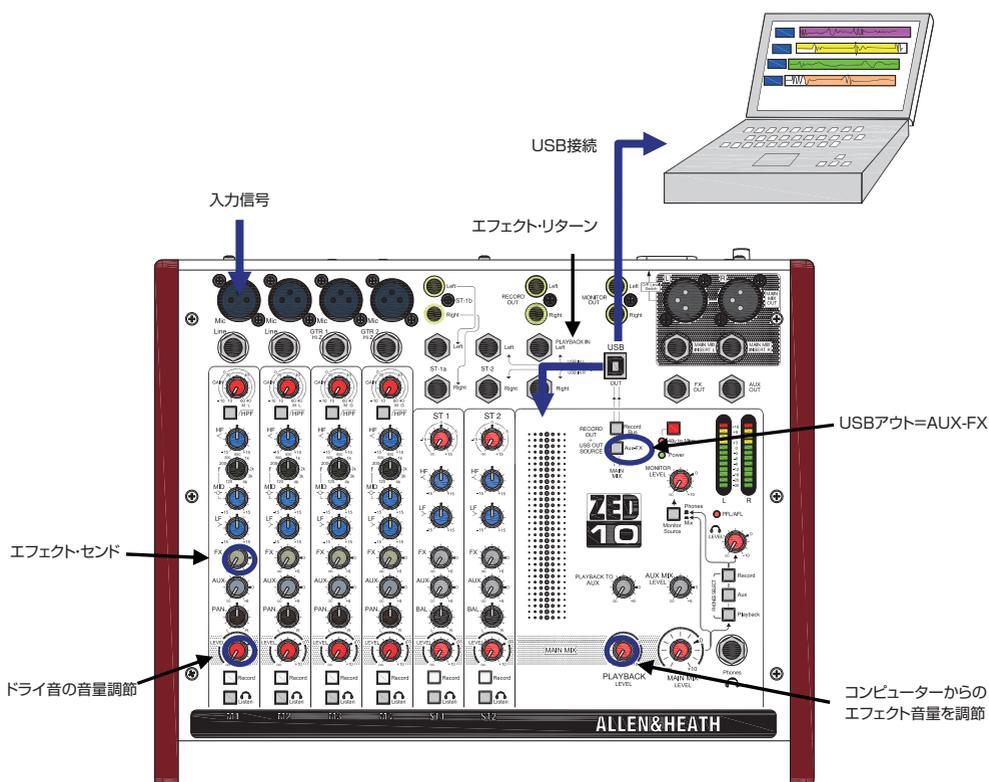
ZED-10活用例:スタジオ・レコーディング



ZED-10活用例:USB経由でエフェクト・ループ1

ZED-10をコンピューターにUSB接続して、コンピューター上の音声アプリケーションやDAWにあるエフェクトプラグインを簡単に活用できます。このとき、ZED-10のUSB出力ソースはAUX-FXにしておきます。ZED-10からの信号(USB右チャンネルなど表示される場合があります)をエフェクト・プラグインが入っているトラックまたはバスに流れるようにアプリケーション上で設定します。コンピューターからのエフェクトがかかった信号はZED-10のプレイバック入力またはステレオ入力チャンネル2のどちらかに入ります。この例ではプレイバック入力に入れています。

各チャンネルにあるエフェクトセンドコントロールでコンピューターのエフェクト・プラグインへ送る信号量を調節でき、プレイバックレベルでコンピューターからのエフェクト成分の音量を調節できます。



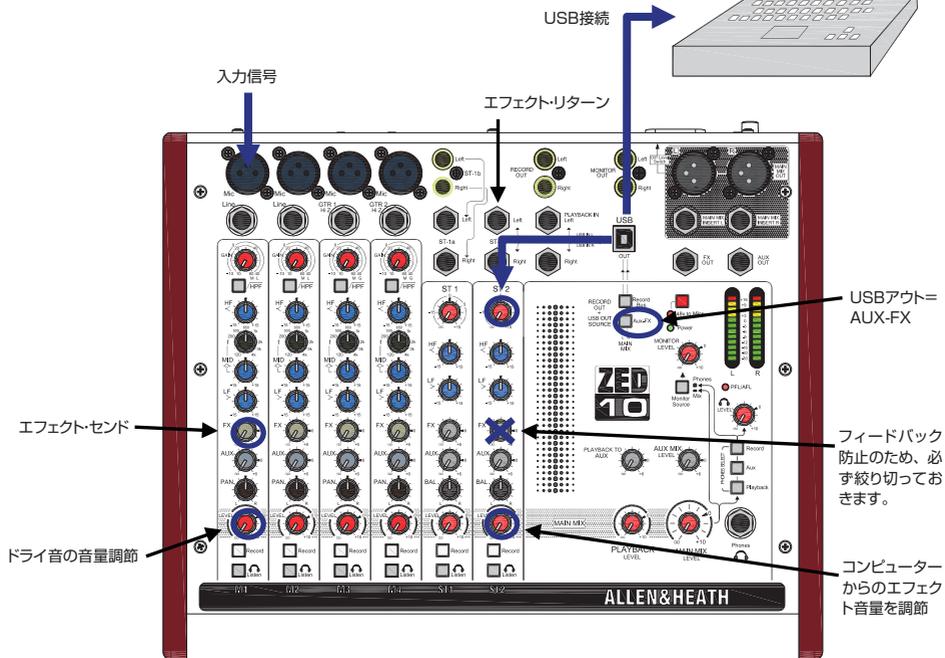
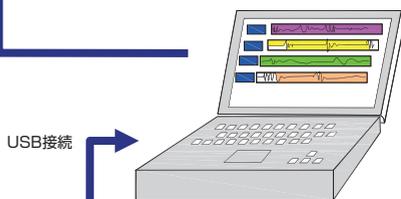
ZED-10活用例:USB経由でエフェクト・ループ2

エフェクト・リターンをST2チャンネルに入れる

音声アプリケーション上でエフェクトを選択し(本例ではリバーブを選択しています)、エフェクト・プラグインのアウトはエフェクトのみに設定します。

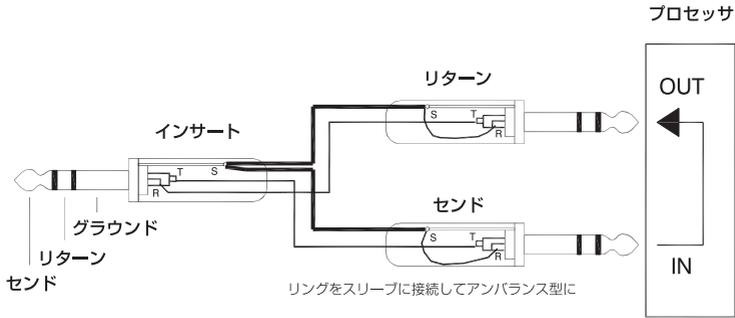


音声アプリケーション上でUSB右チャンネルをエフェクト・プラグインがかかっているオーディオ・トラックに割り当て、トラックの出力(ZED-10へ戻る信号)をステレオでUSBオーディオ・デバイスに割り当てます。

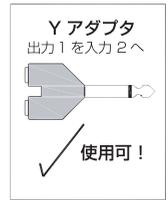


配線について

インサート・ケーブルの配線



一般的な配線



ALLEN & HEATH

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

2021年9月版



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>